

令和2年度（2020年度）第1回熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 令和2年（2020年）8月25日（火）

午前10時00分～

会場 熊本市立図書館 2階 集会室

<p>《出席者》</p> <p>■熊本市立図書館協議会委員</p> <p>桑原 芳哉 委員 (会長)</p> <p>藤井 美保 委員 (副会長)</p> <p>加藤 貴司 委員</p> <p>鎌田 文代 委員</p> <p>西本 彰文 委員</p> <p>濱田 裕子 委員</p> <p>船瀬 道亮 委員</p> <p>宮村 幸宏 委員</p> <p>山田 裕一 委員</p> <p style="text-align: right;">以上 9人</p> <p>《欠席者》</p> <p>なし</p> <p>傍聴者 0人</p>	<p>《出席者》</p> <p>■熊本市側</p> <p>坂本 熊本市立図書館長</p> <p>橋本 植木図書館長</p> <p>上村 とみあい図書館長</p> <p>松田 城南図書館長</p> <p>石本 プラザ図書館長</p> <p>生涯学習課長は欠席</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口館長補佐 (熊本市立図書館) ・福田主幹 (") ・濱田主幹 (") ・松里主査 (") ・岩野主査 (") ・菅主任主事 (") <p style="text-align: right;">以上 11人</p>
---	--

令和2年度（2020年度） 第1回熊本市立図書館協議会 議事録

1 開会

2 熊本市立図書館長挨拶

3 委員・職員紹介

4 議事

議題1 令和元年度（2019年度）図書館の運営状況について

議題2 電子図書館の利用状況について

議題3 学校図書館支援センターの取組について

5 閉会

【議事】

議題1 令和元年度（2019年度）図書館の運営状況について

（事務局より説明）

委員 資料を見ていく中で、単純に1ページの熊本市は蔵書数の他都市の状況の中で8番目にあっていい方かなと思ったが、今説明を聞いて確かに大都市が下にあるが、単純には比較できない、見られないと再確認した。2ページの1人当たりの図書資料費あたりも真ん中あたりで、まあいいのかなと単純に思っていたが、こういうものも大きい都市と比較しながらしっかり見ていかなくてはいけないと確認した。それから、4ページの人口1人当たりの貸出冊数では、熊本市が下の方だったので、もっと本を借りなければならぬ、また、そういう啓発をしなければならぬという感じがした。

委員 事務局から政令指定都市の比較に関してコメントがあればお願いしたい。

事務局 ご指摘のとおりで、予算など内部での議論の時は、政令指定都市の平均並みだから適当ではないかという予算の担当部局からは話があるが、私たちは、まだまだ不足しているということをこれからも言っていきたいと思うし、残念ながら資料費の少なさが貸出冊数等の成果に出ているのではないかと反省しているところである。

委員 資料に載っていないことであるが、相互貸借の状況には何かコロナの影響とかあったのか伺いたい。コロナの影響で若者たちが大学図書館に入れず、相互に行っていたのが入れず、本を借りることができない、自分の大学の図書館だけしか行けなくて困っているという声がある。それについて伺いたい。また、障がいを持った方がどれくらい利用しているか何か分かるようなデータがあれば教えていただければと思う。

事務局 まず、相互貸借におけるコロナの影響はあまり関係なく、本館から他館に貸し出す分も他館から借り受ける分も件数的にはそこまで変わっていない。郵送貸出については、昨年度の実績としてあがっているのは、貸出者数が昨年は97人で357冊ということで30年度以降、若干減っているが、郵送貸出で登録されている方の利用は継続しているところである。

委員 障がいのある方については？

委員 郵送貸出がそれにあたるが、障がいのある方に対するサービスとしてどういうことが行われているか、簡単に全体を事務局から。

事務局 障がいをお持ちの方には郵送貸出を行っており、昨年度の実績は、利用者数がのべ97名、貸出数が357冊、前年度が96名の396冊ということで令和元年の数値としては、あまり変化はなかった。これは、あらかじめ登録していただく必要があり、

43名の方が登録している。

登録の要件は、視覚障害による身体障害者手帳の1級から3級、肢体不自由による身体障害者手帳1級から3級、内部障害も同じで1級から3級。それに準ずる方で郵送貸出以外による図書館の貸出が困難と思われる方に対応している。貸出は1回につき重さ3キロ以内、8冊程度、貸出期間は30日以内ということで郵送貸出を実施している。

もう一つ、相互貸借についての数字を述べると、昨年度本館より他館に貸し出した数が500冊。一方借り受けについては6冊。借り受けは少ない。前年度と大きな変化はない。貸出500のうち県内が219、県外が281で半々くらいである。

委員 コロナ対策で、2月29日から5月20日まで休館されたが、その間に私たちおはなしボランティアはまだ要望があっておはなし会、主に老人施設が多かったが、出かけていくようなことがあった。ここが休館していたので、手元に本のない人は困った。私もそんなにたくさんは持っていない。そんな時に休館されてしまったら、おはなし会も断らざるを得なくなってしまう。その時、県立図書館は予約を入れたら窓口で貸出してくれる対応で大丈夫と言っていて、そういう方法もあるんだと思った。

近年、熊本は地震とか水害とか、コロナは全国的だが、災害がとても多い。だから、そういうときの図書館の貸出とか、こういう時はこういう方法で図書館をというマニュアルを作ってもらいたい。いきなり全体で図書館も公民館も閉まってしまうということが起きてしまい、お手上げの状態だった。

今はコロナの件数が多いので幼稚園、保育園などでもおはなし会ができなくなってしまった。それはそれで仕方がないが、まれに来てくださいと言われる。その時、本がないと困る。何とかできないだろうかと思う。コロナは今年、そして来年まで続くだろうと言われている。その都度に閉めてしまっていたら何もできなくなる。本の整理ができていなかった地震の時とは違い、対応できる部分があると思うのでそういうこと（マニュアル等）を考えていただきたい。

委員 今の話にすごく共感する。コロナの件で先ほどの障がいのある方については、要件が非常に細かく定められている。障害者差別解消法が施行されて以来、障害種別というところではなく、その方々に障がいの助言をしたり合理的な配慮を行ったりするということになっている。手帳ごとにやるということではなく、単純に必要な方として例示していくつかやっていくような形で改善していただきたい。感染症が怖いという人、免疫がないから来られないという意見もあるので、もう少し柔軟に対応していただければありがたいと思う。

委員 コロナ対応で休館措置を取ったということだが、そのあたりに関して事務局からお願いしたい。

事務局 2月末の休館は市全体で公共施設を一斉に閉じるという方針があった。今思えばこ

れだけ 82 日間も長くなるのであれば、もう少し私たちも最低限のサービスを維持することを努力すべきではなかったかと反省しているところである。もし、再び休館するような状況になったとしても、予約の本については継続するなど最低限のサービスは維持できるように努力していきたいと考えている。

また、私たちは電子図書館を始めており、休館中は電子図書館の利用が倍以上に伸びた。今、コンテンツの整備も行っており、そういう予約関係と電子と両方で、できるだけ利用の皆さんに最低限のサービスは続けられるよう努めていきたい。

郵送貸出も必要とされる方にはそういうサービスを提供して参りたいという思いがある一方、マンパワー的な問題もあり、なかなかご希望の方全てにとは現状難しいところがある。ただ、一律に 1 級から 3 級の資格を持っていることが要件ですという制度になっているわけではないので、事情をお伺いしながら可能な限り対応していきたい。

委員 コロナの休館に関しては非常に難しい判断だと思うが、他都市の状況などを踏まえて図書館としてどのようなことができるか引き続き考えていただければと思う。

委員 最初の方で話された政令都市との関係で、例えば、政令市の中で貸出数が多い静岡市の学力が高いとか、そういった指標とかあるのだろうか。二つ目は、本館とプラザではだいぶ使われ方が違うというのを話されていたと思うが、であるならばプラザでは **with** コロナ、**after** コロナを含めて場としての提供を考えていくなればテレワークだとかそういったことにも対応されることもあるのかどうか教えてほしい。

事務局 他都市の状況では、ここで数字を把握している以上のデータはまだ分析がない。学力等の影響についてもぜひ、調査させてもらいたいと思う。

事務局 プラザ図書館は滞在型ということなので、感染防止対策に万全を期すことと、やはりお客様にとって情報を入手するということに差が出てはいけないと考えているので、オンラインでのいろいろと開催等、あるいはオンラインではなくても例えば図書館に来ていただいて一人一人に対応できるようなシステムを作っていきたいと考えている。

委員 何年前にもあったと思うが、静かな図書館と意見が出る図書館といった話もあったと思うが、情報を得るだけではなく、プラザ図書館の特性を考えると、なかなか人の密接な関係というのは難しいけれども、そういうような相談するという場もあっていいのかなと思う。

委員 政令指定都市の比較に関して補足させてもらおうと、静岡市は比較的大きな清水市と合併しており、そちらの図書館もかなり蔵書数を持っているので、恐らくそういったことが背景にあって人口 1 人当たりの蔵書数が高い数値になっていると思う。単純に比較するよりも、人口規模的に比較的近いところであるとかあるいは都市の性格的に近い所、例えば熊本市であれば岡山市とか新潟市にあたるのか、そうい

ったところの数字だけではなくて図書館サービスの内容とかを比較して参考にしていたらと思う。

委員 本館とプラザの特色の違いの話で、私のゼミの学生が大学にはない必要な図書をプラザから貸してもらっているが、学生たちがプラザは本が新しくたくさんあってすごいですと言ってくる。先ほどの話では、あまり貸し出しが本館に比べて少ないという話で、ちょっと考えてみたら、もったいないかなという感じがする。目標に達するために、ちゃんと予算措置もして、新しいいいもの、大学生が必要とするようなもの、かなり専門的なものを入れてもらってと言うような話なので、それがあまり貸し出されないというのはもったいない、何かいい方法はないのかと思ったが、そのあたり今後どのように考えているのか教えてほしい。

事務局 数字の確認で、資料 2 ページの図書資料費で、購入単価、全体平均では市は 1 冊あたり 1,349 円の本を買っているが、プラザに関しては 1,792 円、その他、通常分が 1,288 円ということで、平成 26 年ごろのもっと前だと 1,000 円くらい差がある。そういうことで、プラザ図書館では専門的な少し高い本を特色が出るようにたくさん揃えてきた。こういう点は県立図書館さんと購入単価も非常に近いものがあり、西のプラザ、東の県立図書館的な使い方もしていただけているのかなと思っている。

また、こういう本はどうしても貸出ができない本も多くなっており、そういう関係もあって、入館者数はプラザ図書館の方が市で一番多く、昨年度が 51 万 1 千人、市立図書館が 37 万 8 千人なので、一番多い入館者数であった。そういった資料を求めてプラザ図書館には利用者の方に来ていただいているという実態である。しかしながら、貸出冊数については、熊本地震以降、大きく落ち込んでおり、また、その減少傾向が今も止まっていないという状況である。新設した図書館であるが、新設効果も少し薄れてきたのかなと、お客様もすこしあきられているのではないかと、といった危惧をしているところである。これが現状認識である。

事務局 おっしゃっていただいた通り、当館はプラザコレクションと言って統計白書、年鑑というものを取り揃えている。それが単価としては 1 万円代から 3 万円、5 万円というところで、来館していただいて、誰がきても、いつ来ても見ていただけるような状況で資料の提供を心掛けている。来ていただいたときに棚を見ていただいて、小説とか趣味といったところでの貸出とか、蔵書のバランスというところで考えていかなければいけないということと、今まで貸出をしてこなかった資料についても、このコロナの状況なので、家に持って帰ってゆっくり見ていただくといったところも実行すべきところではないかと考えている。

委員 プラザ図書館は非常に特徴的なというか、コンセプト的な図書館として全国的によく知られている所であり、開館当初はメディア等にもかなり取り上げられたところである。貸出冊数という数字の比較だとそういう（プラザ図書館は何をや

っているんだという)感じになってしまうかもしれないが、そうしたサービスの物差し、サービスを測る数字というのは、必ずしも貸出冊数だけではないと思うので、プラザ図書館の特徴が出るような数字とか、こういったことをやっているというような報告があればいいのかなと思うので、よろしくお願ひしたい。

議題2 電子図書館の利用状況について

(事務局より説明)

- 委員 電子図書館の利用方法がいまだに分からない。こうすれば利用できるということを通知、広めるのにどのようなことをしているのか。
- 事務局 利用については、各学校で使えるようになった時は各学校にお知らせしたが、全体としては熊本市立図書館のホームページの「電子図書館」をクリックしてもらくと電子図書館での利用の仕方が細かく出るようになっている。IDやパスワード、どんなことができるか、サービス内容、利用方法、貸出のルール(たとえば貸出件数は3点まで、貸出期間が2週間、貸出延長が2週間1回のみできる)そういったことがホームページ上に詳しく載っているという形になっている。
- 事務局 補足で、電子図書館の方を開けてもらおうと、利用ガイドという項目があってそこにはさらに詳しく情報を載せてあるので、そこを見ると、文字の拡大であったり、いろいろと便利な機能があるのでご覧いただきたい。
- 委員 パソコンやスマホといった電子メディアに疎いというか、ある意味なじめない、そういった市民の方、特に高齢者の方、そういった方々にも広く利用してもらうには、どういった利用啓発の仕方がいいのかというのが一つ課題かなと思う。
- 委員 電子図書以外にも関わってくるが、選書について今、どんな考え方でやっているのか聞きたい。コロナの前と後では変わるのか、電子図書と既存の本とそれぞれ選書していると思うが、どういう理念、考え方で具体的に進めていきたいと思っているのか、何を大事にしているのか。また、選書のやり方でどういう人たちが選んでいるのか。
- また、趣味やニーズを生かすような選書のあり方、そういったことの考え方、あと私が考えているような多様なマイノリティーの方々も含めて考えた選書のやり方も考えていきたいと思うので、現時点で特に電子図書を中心として、どのような考え方で選書をしているのか、コロナの前と後で何か変化があったのか等総合的に教えてほしい。
- 事務局 まず、電子書籍の選書であるが、紙も含めて選書は図書館司書が行っている。紙の書籍の選書については、収集基準を設けており、それに従って選書している。原則的には熊本市の図書館ということで、一般の方が利用しやすいもの、皆さんが読

みたいと思うもの、あとは公共図書館にふさわしいと思われるものを中心に収集している。

電子図書館については、コロナ以降、本の傾向とか紙の書籍とでは読まれる傾向が違ふということが分かってきたので、現在、電子書籍を選考する時には、まず、小中学校の児童生徒の学習支援になるようなものを優先して選書している。また、基本的にスマホ、パソコン、デバイスに関係なくどのようなものでも使えるような電子書籍ということが一番最初に考えて選書しているし、いろいろな場面で使えるということを念頭に置いている。

電子書籍の選書の仕方であるが、電子書籍のシステムを運用している図書館流通センターが電子書籍の発行している一覧のデータを持っているので、その中から市立図書館にはどういった本がよいか、一冊一冊選書している。中身については、児童生徒が読む可能性があるのも、内容に偏りがなく、極端に偏った書き方になっていないもの、卑猥な挿絵が入っていないもの、そういったものに注意しながら、かなり神経を使って選書している。

委員 選書の方針は、ホームページ上に公開されているのだろうか。

事務局 熊本市のホームページの中で「熊本市立図書館の収集基準」ということで公開している。

委員 ということは、そこを見れば理念もわかると受け取ればよいか。

事務局 その通り。

委員 司書の方が選んでいるというのは非常に大事なことですごくいいことだと思うが、その司書というのは熊本市の正規職員だけのことか、非常勤も含めた複数名なのか、そこら辺の体制、考え方は？

事務局 現在選書しているのは熊本市職員で司書の資格を持っている者と通常カウンターの業務をしている会計年度職員が選書補助ということで入っていて複数人で選書を行っている。

委員 その中には非常勤の人もいるということか。

事務局 そういうことである。

委員 そこを少し明確にし、市民のニーズを生かした選書業務が十分されていると思うが、障がいのある方など多様な方々のニーズに対応するような選書のあり方を今後検討していただければありがたい。

事務局 補足する。例えばマイノリティーの方たち向けの選書ということであるが、正直に現状を言えば、今、図書館向けの電子書籍というのは数がそう多くない。今契約している図書館流通センターの蔵書数7万タイトルほどで、あまりこちらが求めるような資料の供給はまだ出来上がっていないのが現状だと思う。また、別の業者、例えば海外の業者とやればもう少し数は増えるが、神戸市などは英語をはじめ、スペイン語、ポルトガル語など外国籍の住んでいる方向けの電子書籍の提供をや

っている。そういったやり方もあるかと思うが、神戸市ほどの大都市にあっても、なかなかそれほど需要がなく、熊本市としてそこまで提供するのには実際問題としてできないところである。

電子書籍というのは、文字の拡大、読み上げ機能、文字の反転などのいろいろな機能が付いていて、そういった機能をしっかり紹介しながら、障がいを持った方々にもご利用いただきたいと考えている。

委員 選書に関して、そういった方々の意見が加えられるような何か仕組みが、今後出来上がればよいと思う。

委員 今、事務局からあったが、公共図書館で提供できるような電子書籍は、そもそもかなり数が限られており、例えば一般の書店で販売されている新刊の小説も、実際出版社からは電子書籍として発行されているが、そういったものは実は図書館では電子書籍として使えない、提供できない。そういった点でなかなか読みたい本がどれだけ電子書籍の中にあるかというのは、どこの自治体でも難しいところであるが、そういった中でできるだけ、とにかく子どもたちが利用できるような蔵書を増やしていくというようなところでいろいろな工夫をいただいているのかなと思う。

委員 まず、小中学校向けを意識して、選書して電子書籍を入れられたということでありがたいと思う。それに関連して、1つは明るい数値というか、中学生が18,5パーセントと中学生が本を読んでいるという数値が珍しいなど、中学校の子どもたちの推移ということで、ここら辺、どう考えられるのだろうか。中学生はライトノベルなどをネットで読んだりしているので、そういったこともあるのかと思うがどうなのだろうか。

もう1点は、0～6歳というカテゴリーがあるが、0歳の子どもが読むとは思えないので、お母さんたちが借りて読ませたというイメージなのだろうか。あと、電子書籍の良さというか、子どもたちが本を読んだ履歴、あと、電子図書に対してコメントを付けられるとか、そういったところまで今後考えているのか教えてほしい。今後、熊本市は2月から1人1台のタブレットが入るので、もしかすると11月という話もあるので、今後どのように考えているのかと思う。

事務局 まず、中学生の利用が多いというのは本当に我々もうれしいことで、図書館一般でいうと13歳以上は少ないと言ったが、電子に関しては非常によく読んでもらっている。特に小説関係が中学生によく利用されていることが非常にうれしいことで、ただ、高校生とか19～29歳は利用が少ないが、これから中学生や子どもたちが習慣をつけてたくさん読書をしてくれれば本当にありがたいと思っている。その気持ちを維持できるように我々も努力していきたい。

また、子どもと一緒に保護者にも利用して頂いているということで、0～6歳については、もちろん保護者の方々が選んで子どものカードで利用しているという数

値であるが、それだけではなく、資料②の下の方のグラフの 5, 6, 7 月の数値で 30 歳代、40 歳代あたりを見ると 5 月に小中学生の利用が増えたときに、同じく 30 代、40 代の利用も非常に大きく増えている。これは、子ども向けに電子図書館の利用案内を学校を通して各家庭に配ったが、保護者の方も一緒に見て、試してもらった成果ではないかと思う。その後、若干数値は落ちてきているが、以前の 4 月までの数値に比べれば高い水準で今、移行しているということで、うれしい波及効果かなと思っている。

それから、子どもたちに特に夏休みわずかになったが、この期間、じっくり電子書籍を読んでもらいたいと思い、いろいろなコンテンツの整備をしてきたが、最近では、学習系を中心に漢字とか算数とかたくさん用意しているが、例えば電子書籍の特徴を生かした図鑑などもある。面白かったのは昆虫図鑑をこの間買ったが、単に虫が拡大して見られるだけではなく、虫の声が聞こえる。なかなか紙ではできない、セミの声なら「ミンミン」と書いてあった図鑑にちゃんとクリックすると「ミンミン」だったり「ジージー」だったり、いろいろな声が出る図鑑も用意しているので、そういつて楽しみながら学習に利用してもらえそうなコンテンツも揃えていつているところである。

委員 子どもたちが「これいいよ」と本を薦めたりすることができるか。

事務局 実は電子図書館のサイトとかプラットフォームは図書館流通センターのものを借りて使っているという状況である。なので、なかなか我々の一存で対応するのは現状では難しいが、今、全国的に電子図書館の開設が急ピッチで進んでいる。国の支援もあり、我々もあちこちから問い合わせを受けているという状況なので、さらに使いやすく、いろいろと改良していくことを我々もしっかり要望していきたいと考えている。

委員 今話を聞いて素晴らしいと思った。私はまだ利用したことがないが、初めて聞いて面白い、楽しそうだった。そういうことを各館ごとにカウンターで「こういうのがありますよ。」とか利用の仕方についても「ホームページから入られますよ。」「挑戦しませんか。」とか案内を各館で入り口とかそのような所に置いてもらうと、来館した時に「あら、楽しそう。」とかなるので、広報に生かしてもらいたい。

議題 3 学校図書館支援センターの取組について

(事務局より説明)

委員 まず、学校図書館支援センターの範囲はどこなのか、市立のところだけなのか、小中高まで入るのか、私立も業務の内に入るのか、前提として伺いたい。それと、中学校の読書行動が少ないという話もあったので、図書館の魅力、図書そ

のものの魅力を伝えていくというところがすごく重要になってくるのではないかなと思う。その1つの方法として、もちろん皆さんが言っていた広報業務が大事であるが、やはり私としては図書館司書のレファレンスサービスとかレファレンスサービスのそういった力があることによって、図書を読みたいというか、特に中学生とか部活動で忙しい中で、より強く本を読みたいという気持ちにならないとなかなか難しいのかなと思っているので、そういった図書館司書のスキルを高めるような研修の機会とか、子どもで、大人と子どもとではレファレンスサービスの在り方も違ってくると思うので、子どもに特化したレファレンスサービスの在り方など、研修等を実施しているのかどうか、もし実施していないのであれば是非、そういった取り組みもしてほしいと思い、提案させていただくのでよろしくお願ひしたい。

事務局 私の方からは、学校図書館に関わることで説明するが、ここでいう学校は熊本市立の小学校、中学校ということになる。そこを支援するという形でやっている。研修については、新任の学校図書館司書業務補助員に対しては、年2回、4月当初に実施していたが、本年度は残念ながらコロナの影響で実施することができなかった。しかし、どうしても図書配送上必要だということで、少し遅れて、1時間半程度という短い時間で集まってもらって、必要最低限の研修を実施している。それ以外の研修については、指導課でも実施しているが、本館としては、先ほど述べたように「本の散歩」というような図書便り、あるいはグループウェアでメールや掲示板を活用していろいろな情報を伝えるというのが中心となっている。

また、図書館業務補助員の自主的な研修も進んでいて、教育センター等の配慮もあって「teams」が使えるようになったので、ベテランの司書業務補助員が中心となってレファレンスや貸出等のいろいろな研修、また、本年度はできなかったが、夏季休業期間中に指導課の指導主事と呼んでのレファレンスに関する研修等も行われている。

ただ、実態として学校図書館司書業務補助員の人数確保にも汲々としており、熊本市の場合小学校92校、中学校42校と非常に学校数が多いので人数がなかなか集まらなかったり、辞められる方も多かったです。そこでなかなか研修が十分にいきわたらない部分があるところが、本年度は特にコロナの影響もあり悩みのところであるが、レファレンスに関することは今後ますます充実していかなければならないなと思っているところである。

委員 私自身もそういった子どもにとってのレファレンスも含めて研修をしたことがあるので、何か手伝いできることがあれば、声をかけてもらいたい。

委員 司書補助を確保するのが難しいという話があったが、確かに難しい仕事でもあり、専門的な知識も欲しいところである。それでもやっている方々は一生懸命現場で子どもたちのことを考えて取り組んでもらっている。研修についても、指導課から

行っていており、学校としても大変助かっている。また、司書補助の有志の方で自主研も行っていただき、特に今年なった方に積極的に声掛けをして、夏休みに5回の研修を行っている。このように、子どもたちのためになるように一生懸命活動している。

さっきあったリクエスト便や物語定期便は、子どもたちはとても楽しみにしている。そうした読書センターとしての役割、もう一つは調べ学習もあるので学習情報センターとしての役割もしっかり果たせるように、学校もしっかり取り組んでいきたいと思っている。

委員 学校図書館支援センターの範囲の中に、あおば支援学校は入っているかの確認と、あと、主な事業としてリクエストを受けてやるタイプと図書館の方から選定して送るプッシュのようなイメージのやり方があると思うが、リクエストというのはある程度これ以上増えるということはないと思うが、図書館からお勧めするということはいろいろ伸びしろがあると思う。今後どのようなことを考えているか教えていただきたい。

事務局 あおば支援学校などの特別支援学校も実はしっかり範囲の中に入れてたいが、実状を申し上げると、パソコンは置いてあり、その中にLB@SCHOOLもあるが、そこに司書業務補助員は今のところまだ支援学校には配置されていない。そこで、物語定期便等定期的なものを配送しようとするとなかなか職員がその負担をしなければならぬということ、難しいところがある。ただ少しでも対応できるようにということで、例えば、あおば支援学校の場合は隣にある学校の司書業務補助員に大変申し訳ないが、手伝っていただき時間を見つけては行ってもらっているというのが現状である。

ただ、そうした支援学校、通常学校にある特別支援学級、また、各学級にも特別な支援、配慮の必要な子どもが大変増えている。先ほどのリクエストの部分で、特別支援学級図書リクエストを昨年度から非常に充実させている。実際、非常にリクエストが増えている。また、なぜこれを充実させているかということ、非常に効果的ではあるのに、本1冊1冊が高価である（学校単位では購入しにくい）。昨年度購入した一番高かった本は大型絵本で1万円以上する。大型絵本、布の絵本、音の出る本、読み上げ機能のついている本などをセットとして貸すと、非常に特別支援学級、学校で有効に活用できる。中学校で盛んに行われているキャリア教育についても、紙の図書及び電子図書の両方でより今後充実して、リクエストがかかるようになればよいと考えている。

委員 学校図書館の支援のことは知らなかったが、資料を見て、おすすめ図書の貸出で令和元年度は、貸出数26校に2600冊となっているが、先ほどの説明で本年度は希望の学校が多すぎて抽選にしたということであった。せっかくこういうことがあるなら希望のあった通り全校にフルに貸したいと思う。

それから 2600 冊貸し出した本は返ってくるのか、貸し出したまま学校に貸与されるのか。みんな同じセットにしないで、返ってくるのであれば、お互いに次の学校と交換するとか、そういう仕方をして、たくさん子どもたちにいろいろな本を用意できるようにできたらと思う。

それから移動図書館が私たちの町には回ってくるが、熊本市もずいぶん大きくなって、移動図書館がどれだけ回っているか把握はしていないが、移動図書館を広げていくような考えはあるのか。それから、地域文庫などの利用状況が数字になって表れてくるようになるのか尋ねたい。

事務局 おすすめ図書、小学校のセットは 30 セット用意している。なかなか（何校から希望があるか）読めないところで、非常に少なかったり、本年度はたまたま 33 校の希望があつて 30 セットでは足りずに 3 校の学校には来年度是非またお願いしますという形になった。そこらへん検討していかなければならない。

貸し方としては、26 校と書いてあるのは低中高すべて同じ学校、26 校ということになる。例えば A 小学校だとすれば、A 小学校には 1 学期に 1・2 年の 100 冊セットを貸し、そして 2 学期に 3・4 年の 30 冊のセットを貸す。3 学期に 5・6 年の 30 冊のセットを貸す。そうなるともちろん 1 学期に貸していた本は 1 学期の終わりには回収する。そして、この 1・2・3 学期の組み合わせを 30 校で工夫する。また、学校からの希望もあり、3 学期に 5・6 年のセットが来ると 6 年生は期間が短いので、1 学期に 5・6 年生のセットを貸してほしいという希望にも応じて、それを学期ごとに貸し出して回収して、また次のところに配布するという形で回している。

事務局 移動図書館について申し上げます。本館と植木図書館、城南図書館の 3 か所にそれぞれ 1 台ずつ移動図書館車がある。この 3 台で 83 か所の移動図書館のステーションがあり、巡回している。利用者は以前に比べると減少傾向にある。また高齢の方の利用が中心である。貸出冊数としては年間のべ 35,300 冊が令和元年度の実績である。利用者数にして 3,896 人、のべということになる。実人員としてはだいたい 150~200 という人数ではないかと考えている。

また、移動図書館車が、非常に老朽化が進んでおり、30 年近い年数がたっているということで修理をしながら、実は今、うちの移動図書館車もこの暑い中、クーラーが故障して工場で修理中である。修理しながら、できる限り、このサービスは続けていきたいと考えている。一方では、電子図書館も昨年からはじめたので、そちらの利用も案内しながら、同時に進めていきたいと考えている。

団体貸し出しについては、いろいろと利用いただいております、貸出冊数等も統計に入っている。昨年度の利用状況は団体数としてのべ約 2 万人の利用である。登録者数として 2,342 人、あまり目立たないが病院とか老人ホーム関係とかで、まとめて本を貸したり、置いてもらったりして利用してもらっている。

委員 令和 1 年度のおすすめ図書の貸出は小学校 26 校であったということ、今年は 30

セットのところは 33 校で抽選になったということであるが、26 校というのは、その前の年より増えたり減ったりということなのか。今年の 33 という希望がどういう理由かで増えた、あるいは、来年度はどうなりそうとか、そういう見込みはどんな風に見ているのか理由あたりを尋ねたい。

もう 1 つは、支援学校に司書業務補助員がいないという話が出たが、全体として全部のところは配置できていないという説明もあったが、リクルートの方法の工夫とか、あるいは、あまりにも仕事に対して必ずしも待遇が十分でないから希望者がいないとか、そういうことなのか。いずれにしても場所があって、物があるだけではなく、そういった司書業務の人がいて働きかけるということは大事なことで、そのあたりを今後何か工夫することを考えているのか教えてほしい。

事務局 おすすめ図書の見込みは、実はおすすめ図書のスタート時は非常に希望する学校が多くて、毎年抽選をしていたと聞いている。ただ、ここ数年はだんだん希望数が減ってきて 30 セット以下になることが多かった。その理由として、なかなか予算面の都合もあり、おすすめの 100 冊や 30 冊をどんどん新しいものに変えていくということがなかなか予算面で厳しいところがあるので、ある意味、もう 1 回見たおすすめ図書だったり、その本は自分の学校にあるというものになってしまったりしてくると、貸出の希望が減ってくる。ただ、本年度は予想外に 33 校と増えて、これがなぜ増えたかは分からないが、コロナの逆に関係もあるのかもしれないが分からないところである。

実状を正直に申し上げると、中学校は 10 セット用意しているが（希望は）5 校である。しかも、厳しい時は 1 校しか希望がない時もある。そして何度か「まだたくさん借りられますよ。」と声をかけて、やっとな増えることもある。そこで本年度、まず、中学校の方からということで、中学生の読書行動の減少が顕著なので、中学生のための 30 冊のリーフレットの見直しを、今行っている。そして、予算の許す範囲で、この 30 冊のセットの中での入れ替えをして、より中学生が読みたくなるような本を選んで、来年度からは、新しいセットの貸出ができればなと思っている。そういった形で順次限られた予算の中ではあるが、セットの中身を替えながら充実させてたくさん学校の学校から希望してもらえるようにできればと思っている。

また、司書補の待遇や採用に関しては指導課が関わっているので、こちらとして言えることは限られているが、希望する方がいても、やはり日々子どもたちと接しなければならぬという大変さ、また、実際やってみて仕事の難しさ、LB@SCHOOL の操作などもあり、割と早く辞められるという方もいて、精一杯いろいろフォローはしているつもりだが、そういったところがまだ課題として残っているところである。

委員 なかなか給料を増やしたりとかいうことはできないことであり、難しいかなと思う。話を聞いて職員の方はよく頑張っていると思う。定着をするために給料を上げ

るというのも1つの方法であるが、そういう段階を認めてもらえる、自分の意見が生かされるというところに、非常勤職員の方も給料が安くても続けてみようというモチベーションにもつながってくる。そういった職員が残っていけば、新しく入ってきた職員のスキルアップにもどんどんつながっていくので、そういった段階を主として認めたり、積極的にそういったことをやっていますよということを広報したりとか、ちょっとした、例えば私も知り合いにこの仕事をしていた者がいるが、結構痛いのが、夏休み、冬休みにお金が全然入らないことがきついとされていたので、例えば、夏休みでも数日、研修をするという名目でも少しでもお金が出れば、低コストでモチベーションにつながったりする。一律に給料を上げなくても、少し集中して、自分の意見が生かすとかスキルを認めるとか、そういったことにお金が使われればいいのかなと思う。

自分も別の部署で市の非常勤をやっていたことがあるが、給料は民間に比べると安かったが、結構意見を吸い上げてもらい、形にしてもらえるような部署だったので、すごくモチベーションを保つことができた。そういった体験からも、ぜひ検討をお願いしたい。

委員 司書業務補助員の雇用については、先ほどあったように市立図書館の所管ではなく、教育委員会の指導課の所管なので、この場で責任ある回答をもらうわけにはいかないが、こういった意見が出ているということを所管の方に伝えてもらいたい。確かに委員から指摘があったように、夏休み、春休み、冬休みの学校の長期休暇中は雇用がないというのは他の自治体では実はない。他の自治体の学校司書は、4月1日から3月31日までの通年雇用がおそらく県内でもほとんどであると思う。そのあたりが、熊本市で定着しない1つの大きな理由かと感じている。教育委員会の中で検討していただきたい。

その他

委員 先ほど、熊本県立図書館という言葉が出てきたと思うが、熊本市の傾向と熊本県の傾向、熊本県の図書館の熊本市向けの貸出、これはみんな揃っていると考えてよいか。貸出の傾向や利用の傾向であるが。

事務局 県立図書館と市立図書館の利用の状況の違いは、基本的に県立図書館は調べ物を中心に図書を整備しており、うちの方は、とにかくたくさん本を読んでもらいたい、たくさん利用してもらいたいということを目指して運営している。具体的には、例えば、みんなが読みたいという本は複数取り揃えており、例えば20冊いっぺんに同じ本を買ったりして、1日も早く順番が回ってくるようにという整備をしている。県立図書館は、そちらよりも幅広く深く、どちらかというと大学図書館に近いのかもしれないが、じっくり調べ物をしたり、勉強したりできるようなことを中心

に考えているようだ。その結果が利用者数などの差に出ており、熊本市の図書館、公民館図書室も含めて利用者数は非常に多い、貸出冊数も多い。

委員 協議会の議事録や関係資料が古い物しか見つからない。もし、HP にあがってないようであれば、適宜あげてもらいと助かる。平成 29 年の古い物はあったが、最近のものがない、

事務局 確認して、早急に上げるようにしたい、

事務局 本日の協議会の会議録は、ホームページ上で公開する。

終了